名古屋女子大学　紀要　63（人・社）393～404　2017

母親の育児意識に関する研究
—子育て支援利用者の自由記述—

幸　順子

Factorial Analysis of Behavioral and Emotional Representation in Maternal Activities by a Questionnaire Survey: Examination of Free Descriptive Answers by Mothers who were Using Child Care Support Services

Junko YUKI

1．問　題

家庭における育児機能の低下や子育て困難が指摘され、育児支援の必要性が主張されている。現代の子育てをめぐって櫻谷（2003）[1]は、子どもや子育てへの経験的理解の乏しさと育児不安や困難との関連性、夫の父親としての成熟の課題、就労と子育てをめぐる女性の葛藤や就労支援の不十分さなどの実態を示し、都市化、少子化、核家族化ゆえの子育て支援の課題があることを示唆している。こうした問題に関して柏木（2008）[2]は、現代日本社会における「孤独な子育て」の現状を踏まえ、子育ての社会化、つまり家族以外の社会的支援の必要性を主張した。

現在、育児にまつわる不安や困難は、子どもや母親の精神保健上の問題だけでなく、養育者を含む家族へのサポート体制、ライフサイクルの変化にともなう女性自身の生き方をめぐる葛藤など、様々な要因が絡みあってもたらされることが指摘されている。したがって、育児支援策については、家庭の養育者の意識、置かれた状況、抱える問題、社会状況とのかかわりのあり方など、不安や困難を生み出す要因を明確化し、ニーズに応じて立案される必要がある。

浅野・高橋・時安（2006）[3]、浅野・百澤・山本（2008）[4]、幸・浅野（2010a）[5]、幸・浅野（2010b）[6]、幸・浅野（2012）[7]、浅野・幸・時安（2013）[8]、幸・浅野（2014）[9]、幸・浅野（2016）[10]は、育児意識を育児情報や父親以外との人間関係など、より広範な社会的関係の中でとらえることとし、養育環境の状況や問題について実証的に明らかにすることを目的として、保育園児・幼稚園児（３～５歳）・子育て支援利用（子どもの年齢範囲０～３歳）の母親を対象とした「育児意識」に関する質問紙調査研究を行い、母親の育児意識に関する因子構造の特徴の検討を行ってきた。

これまでの研究成果として、就労する母親と専業主婦の育児意識に関して①「子どもに対する否定的な感情・行動傾向」、②「社会的育児支援資源の利用」、③「育児知識・技能についての不足感」、④「夫婦間の協力関係維持」、⑤「子どもからの自由」などの因子が共通して抽出され、より年長の子どもを育児中の母親に「子どもに対する否定的感情・行動傾向」が強い傾向があることが明らかにされた。また、子育て支援利用の母親を対象とした因子分析パターンと自由記述結果の検討からは、子育てに関する情報不足および支援への依存傾向と育児ストレスに関連性があり、育児への迷いや苛立ちの感情につながっていることが示唆され、また、家庭内外での支援・協力等の豊富な対人的関わりと安定的育児に関連性があり、母親自身の生き方や教育観への洞察につながっている様子が示唆された。

２．目　的

本研究では、子育て支援利用者（子どもの年齢範囲０～３歳）全182事例について自由記述部分に注目し、個々の母親の「子育てに関する心配・不安」、「子育て支援利用の実態」、「支援へのニーズ」について具体的に検討し、子育て支援を利用する０～３歳児の母親の育児意識について検討することを目的とした。

３．方　法

質問紙

浅野ほか（2006）[3]にて使用した質問項目および自由記述部分を、幸・浅野（2010a）[5]、幸・浅野（2010b）[6]では対象者に合わせて一部改変した。質問紙作成については浅野ほか（2006）[3]に提示されている。なお、質問項目の改変は、部分的な表現上の改変であり、浅野ほか（2006、2008）[3][4]の結果と合わせて分析するにあたって差し障りのない程度の変更である。本研究で対象とする子育て支援利用グループに使用した質問紙の項目内容は、幸・浅野（2010a）[5]に示した通りである。

基礎資料

幸・浅野（2010b）[6]による、愛知県内Ｋ市公立児童館親子教室参加（子どもの年齢範囲０～３歳）の母親を対象とした質問紙調査への回答182事例に基づく。

自由記述データの分析

自由記述の内容は①「子育てをしていて将来心配に思うこと」、②「他の育児支援への参加」、③「今後必要な育児支援」、④「調査への意見」の４つである。実際の調査用紙の記述を図１に示す。

1．子育てをしていて将来どのようにしていけばいいのか心配に思うことはありますか。それは，どのようなことですか。

2．最近，子育て支援センター，育児サークル，ボランティアやNPOによる広場など，さまざまな育児支援があります。他の支援に参加したことはありますか？○をつけてください。（　ある　　ない　）参加されたことがある場合それはどのような活動ですか？

〔　　〕

3．今後どのような育児支援が必要だと思いますか。

4．調査に対するご意見がありましたらお書きください。

図１　自由記述の質問内容

このうち、①「子育てをしていて将来心配に思うこと」、②「他の育児支援への参加」、③「今後必要な育児支援」、について内容を吟味し、カテゴリー化を試みた。

4．結　果

自由記述データ内容のカテゴリー化に際しては、次の手順を踏んだ。子育て支援利用グループ全データ（182事例）の自由記述内容①②③をそれぞれ検討し、意味を簡潔に記述し直した。その際、１人の回答に複数の内容にわたる回答が含まれていると判断した場合は、内容ごとに分類した。その内容を吟味し、共通する記述や類似する記述をまとめ、カテゴリー化した（小カテゴリー）。その上で、更にそれらを大きく大カテゴリーとしてまとめた（表１、２、３参照）。

表１　自由記述内容①「子育てをして将来心配なこと」のカテゴリー分け（全182事例、数値は延べ事例数）

大カテゴリー	延べ人数	小カテゴリー	延べ人数
㋐子どもの成長発達	20	ⅰ心身の成長発達	16
		ⅱ子どもの人間関係（親子関係以外）	2
		ⅲ子どもの将来の職業	1
		ⅳ健康	1
㋑教育・親子関係	54	ⅰ教育観・親としてのあり方・親子関係	20
		ⅱ子どもへの関わり方・対応	18
		ⅲしつけ・生活習慣	16
㋒生活	16	ⅰ経済面	5
		ⅱ仕事との両立	5
		ⅲ生活環境	4
		ⅳ家族計画（子どもの人数）	2
㋓特になし・特定できず	10	ⅰなし	5
		ⅱ考えていない	2
		ⅲわからない	1
		ⅳないわけではないがなるようになる	1
		ⅴ色々ある	1
無回答	111		111

子どもの基礎情報と自由記述欄への回答は以下の通りである。

（１）基礎情報について（182事例中。以下、数値は延べ事例数）

①　対象児の年齢（１つの回答用紙につき、きょうだい２人分の記入あり：７事例）

０歳：54事例、１歳：51事例、２歳：37事例、３歳：18事例、５歳：２事例、６歳：２事例、無回答：25事例

②　出生順位（１つの回答用紙につき、きょうだい２人分の記入あり：10事例）

第１子：148事例、第２子：33事例、第３子：８事例、第４子：１事例、無回答：２事例

③　性別（１つの回答用紙につき、きょうだい２人分の記入あり：８事例）

男児：78事例、女児：80事例、無回答：32事例

（２）子育て支援利用者（０～３歳児の母親）の自由記述回答（182事例）について

①　「子育てをしていて将来心配に思うこと」の回答数と内容（数字は延べ事例数）

182事例中71事例に回答が見られた。111事例は無回答。

内容の内訳は次の通りである。（表１）

㋐子どもの成長発達：20事例

表２　自由記述内容②「他の育児支援への参加」のカテゴリー分け（全182事例、数値は延べ事例数）

大カテゴリー	延べ人数	小カテゴリー	延べ人数	内容	延べ人数
㋐子育ての学び合いと交流	52	ⅰ子育て支援センター	12	保育園の子育て支援	3
				児童福祉センター・児童センター・総合福祉センター	4
				子育て支援センター（育児教室）	4
				交通公園	1
		ⅱ育児教室	23	0～3歳児向け育児教室（お話、歌、体操含む）	19
				児童センターの親子教室	2
				離乳食指導・歯科指導	2
		ⅲ育児サークル	9	行政のサークル	1
				地域の育児サークル（体操・読み聞かせ・制作含む）	7
				双子サークル	1
		ⅳ育児広場・サロン	8	子育て広場	1
				ふれあい広場	2
				ミニサロン	1
				地域の子育てサロン	2
				にこにこキッズ	1
				談話	1
㋑育児イベント（体操・遊び・本読みなど）	20	育児イベント	20	市の育児イベント	1
				保育園のイベント・行事	2
				子育て支援センターのイベント・行事	1
				親子体操・体操教室、親子でリズム遊び	4
				リトミック	1
				ベビーマッサージ	1
				子どもの手遊び	2
				読み聞かせ	7
				図書館のお話会	1
㋒保育・託児	2	保育・託児	2	プレ保育	1
				託児	1
㋓支援の主体者	1	支援の主体者	1	地域の子育てマップの制作	1
無回答	128				

ⅰ心身の成長発達（成長の援助方法、子どもの心身の成長について行けるか）16事例
ⅱ子どもの人間関係（まわりの子どもとの接し方）：２事例
ⅲ子どもの将来の職業：１事例
ⅳ健康：１事例
㋑教育・親子関係：54事例
ⅰ教育観・親としてのあり方・親子関係（習い事、社会問題の影響、教育方針、成長の援助の仕方）：20事例
ⅱ子どもへの関わり方・対応：18事例
ⅲしつけ・生活習慣：16事例
㋒生活：16事例
ⅰ経済面（教育費）：５事例
ⅱ仕事との両立：５事例
ⅲ生活環境：４事例
ⅳ家族計画（子どもの人数）：２事例
㋓特になし・特定できず：10事例

表３　自由記述内容③「今後必要な育児支援」のカテゴリー分け（全182事例、数値は延べ事例数）

大カテゴリー	延べ人数	小カテゴリー	延べ人数	内容	延べ人数
㋐主に親子を対象とした支援	46	ⅰ保育所・幼稚園の保育	11	保育園増設・充実・待機児童減少	5
				延長保育	1
				春休みなどの保育	1
				残業時の夜間保育	1
				働く母親への支援	2
				幼稚園の延長保育	1
		ⅱ託児・一時預かり	6	託児・一時保育	4
				親が病気をした時預けられる場所	2
		ⅲ母親の手替り	2	産後の手伝い	1
				第２子を妊娠中の育児家事支援	1
		ⅳ医療的支援	2	医療補助期間の延長	2
		ⅴ相談	1	相談センター	1
		ⅵ子育て支援センター	4	子育て支援センター（公共）	4
		ⅶ親子教室	6	親子教室（回数、月齢ごと、子どもの発達と育児）	5
				手軽に参加できる教室の増設	1
		ⅷ親子の広場・交流	10	（同じ子どもを持つ）親子で交流できる機会・場	5
				駐車場のある子育て広場	1
				父親との遊び	1
				子どもとゆったり遊べるところ	1
				妊婦同士の親子交流の場	1
				孤独な１歳児時期の交流会	1
		ⅸ育児サークル	4	子育てサークル	3
				お金のかからないサークル	1
㋑主に親を対象とした支援	20	ⅰ母親同士の交流	6	地域でママさん同士話できる場所	3
				親が知り合える場所	1
				ママ友を作れる、子どものことを話せるところ	1
				情報交換の場	1
		ⅱ母親のリフレッシュ	4	母親の精神的肉体的負担を軽減するサポート	1
				母親の息抜きできる場所	1
				0歳児の託児付きカルチャースクール（母が出歩ける場）	1
				子どもを預けて母親が勉強したり、息抜きできるシステム	1
		ⅲ経済的支援	4	経済的支援	2
				入園料の値下げ	1
				３人目からの経済的支援	1
		ⅳ育児相談など	3	離乳児からの食育支援、乳児の癇癪への対処、成長に関する事	1
				子育て相談（発達途中の食事・排泄）・悩み相談を一緒にして相談しやすくする	1
				専門家に直接相談できる機会	1
		ⅴ出かけられない、孤立しがちな母への支援	2	支援センターに来れない人への支援	1
				孤立しがちな母親のサポート	1
		ⅵ育児支援の情報提供	1	育児支援の情報	1
㋒主に子どもを対象とした支援	10	ⅰ子どもの遊び場・子ども同士の交流	9	児童館など子どもが遊べるスペース	2
				近隣に有料でも良いので遊びの充実した施設	1
				子を安心して遊ばせられる場所	2
				公園	1
				ゴミ、犬の糞の落ちていないきれいな公園、公園を掃除する活動	1
				地域の子ども同士の交流	1
				他の子と遊ばせること	1
		ⅱ子どもの教室	1	教室（リトミック、英語）	1
㋓満足	3	満足	3	満足している	3
㋔わからない	1	わからない	1	今の支援も十分利用していないのでわからない	1
無回答	119				

ⅰなし：５事例
ⅱ考えていない：２事例
ⅲわからない：１事例
ⅳないわけではないがなるようになる：１事例
ⅴ色々：１事例

特に、回答数の多かった㋑「教育・親子関係」(54事例)のうちⅰ「教育観・親としてのあり方・親子関係」(20事例)、ⅱ「子どもへの関わり方・対応」(18事例)、ⅲ「しつけ・生活習慣」(16事例)、㋐「子どもの成長発達」(20事例）のうちⅰ「心身の成長発達」(16事例）については、次のような記述内容（抜粋）があった。

・㋑－ⅰ「教育観・親としてのあり方・親子関係」

事例13：子どものしつけ、教育をしっかりしたい反面、しすぎてはいけないので、その境界線が難しいと感じています。(㋑－ⅲ「しつけ・生活習慣」と重複)
事例24：しつけ、教育をどのようにすすめていったらいいか。(㋑－ⅲ「しつけ・生活習慣」と重複)
事例31：習い事はいつから始めたらいいのか。
事例32：有害サイト（パソコン等）の規制がないこと。(親がどうすれば一番よいか)
事例37：先生達の悪いニュースなど聞くと不安。モンスターペアレントなどの話をテレビで観ると、そのマナーの悪さも心配。
事例43：母親次第で子どもの性格が決まってくるんじゃないかとプレッシャーがある。
事例46：社会がどんどん変化するなか、どのように育てていけばいいのか。
事例71：子どもに対してどこまで干渉すべきか。
事例74：義母（主人の家）との教育方針の違い。プレッシャーであり窮屈。劣等感すら感じることがある。「義母の子育ては終わっているのだ」と言いたくなることがある。
事例81：持っている力を見つけること、伸ばすこと、見守ること。
事例86：成長の手助けをどうするのが一番かわからない。
事例90：子どもの体や心の成長についていけるか不安。
事例117：自分たちの子育てがよいのか分からなくなり、漠然と不安になることがある。
事例131：親と子どもの位置関係（子どもにとってよい親子関係）
事例177：夫と死別しているので、どのように話して教えれば良いのか。父親の存在について。

・㋑－ⅱ「子どもへの関わり方・対応」

事例５：どの程度注意していいのかわからない。やけどなどの危険があるときは手をたたいたりするけれど。
事例14：しかりかたや褒め方
事例22：下の子ができてやきもちをやいてたたいたり、つねったりかんだり、怒ってしまうが、怒っていいのか。
事例25：手が付けられないくらい泣くときなどどうしていいかわからなくなる時がある。
事例29：健康のことや思春期時の接し方（㋐-ⅰ「心身の成長発達」と重複)
事例60：しつけ、支え方、反抗期の対応の仕方（㋑-ⅲ「しつけ・生活習慣」と重複)
事例63：だめなことを注意する際の仕方

・㋑－ⅲ「しつけ・生活習慣」

事例１：生活習慣を教えること（食事、歯磨き等、一人でできるようになるか心配）
事例19：トイレットレーニングなど
事例63：どのように「しつけ」をしたら良いか。
・㋐－ｉ「心身の成長発達」
事例23：思春期にどんな状態なのか（子どもの心が）心配。自分が予想もしていなかった出来事を受け入れられるのかどうか。どうしても、道をそれてほしくないと思ってしまう自分がいる。
事例75：人の道を外れないようにしてほしい。
事例78：ちゃんと言うことを聞くようになるのか。今落ち着きがなく、落ち着きのある子になってくれるか。
事例125：社会に適応できるか。（人見知りのため）
事例150：子どもが今のままでいいのか不安。

② 「他の育児支援への参加」の回答数と内容（数字は延べ事例数）
182事例中54事例に回答が見られた。128事例は無回答。
内容の内訳は次の通りである。（表２）
㋐子育ての学び合いと交流：52事例
ｉ子育て支援センター：12事例
ii育児教室：23事例
iii育児サークル（主に地域の子育て中の親が中心となり、何らかの目的を持って自主的に活動するグループ）：９事例
iv育児広場・サロン（親子が集まり、自由な交流をする場）：８事例
㋑育児イベント（体操・リズムあそび・リトミック・ベビーマッサージ・手遊び・絵本の読み聞かせなどの育児イベント）：20事例
㋒保育・託児（プレ保育・託児）：２事例
㋓支援の主体者（地域の子育てマップの制作）：１事例
特に、回答数の多かった㋐「子育ての学び合いと交流」（52事例）のii「育児教室」（23事例）を見ると、「０～３歳児向け育児教室（おはなし、歌、体操含む）」が19事例あった。

③ 「今後必要な育児支援」の回答数と内容（数字は延べ事例数）
182事例中63事例に回答が見られた。119事例は無回答。
カテゴリー内容の内訳は次の通りである。（表３）
働く母親への支援、子育て中の親子の交流へのニーズが多くあることが示された。
㋐主に親子を対象とした支援：46事例
ｉ保育所・幼稚園の保育：11事例
ii託児・一時預かり：６事例
iii母親の手替り：２事例
iv医療的支援：２事例
ｖ相談：１事例
vi子育て支援センター：４事例
vii親子教室：６事例
viii親子の広場・交流：10事例

ⅸ育児サークル：４事例
㋑主に親を対象とした支援：20事例
ⅰ母親同士の交流：６事例
ⅱ母親のリフレッシュ：４事例
ⅲ経済的支援：４事例
ⅳ育児相談など：３事例
ⅴ出かけられない、孤立しがちな母への支援：２事例
ⅵ育児支援の情報提供：１事例
㋒主に子どもを対象とした支援：10事例
ⅰ子どもの遊び場・子ども同士の交流：９事例
ⅱ子どもの教室：１事例
㋓満足：３事例
㋔わからない：１事例

特に、回答数の多かった㋐「主に親子を対象とした支援」（46事例）のうちⅰ「保育所・幼稚園の保育」（11事例）、ⅷ「親子の広場・交流」（10事例）、㋒「主に子どもを対象とした支援」（10事例）のうちⅰ「子どもの遊び場・子ども同士の交流」（９事例）については、次のような記述内容（抜粋）があった。

・㋐－ⅰ「保育所・幼稚園の保育」

事例３：保育園の増設、開園時間の延長
事例15：保育園の待機児童の減少
事例17：幼稚園の延長保育、春休みとかの保育
事例35：したくなくても残業がつきものの職場なので、もう少し子どもを夜でもみてくれる施設が欲しい

・㋐－ⅷ「親子の広場・交流」

事例17：同じ子どもをもつ親・子のふれあいの場が欲しい。自由参加できる場、情報交換の場
事例55：親子でふれあえる機会がたくさんほしい
事例62：子育ては最初の１年がとても孤独なので、その時期に交流会のようなものがもっとあればいい
事例90：駐車場があって車で行ける子育て広場を増やしてほしい
事例121：親子共々のお友達作りができる、妊婦さん同士のお友達つくり

・㋒－ⅰ「子どもの遊び場・子ども同士の交流」

事例20：有料でもいいので、遊びの充実した施設が近くにあると良いと思う。
事例24：きれいな、ゴミ、犬のふんのおちていない公園。そして公園を掃除する活動。
他の子といっしょに遊ばせること
事例76：児童館など子どもの遊べるスペース
事例77：子どもを安心して遊ばせる場所
事例127：公園（年齢に合わせて）
事例136：家の近く（同じ学校区）の同世代（子ども同士）での交流

５．考　察

（１）自由記述から窺われる子育て支援利用者の全体的特徴

基礎情報からは、182事例中回答のあったものに関して、男女比はほぼ半々であり、出生順位は第1子が約８割、第２子が約２割、対象児の年齢は０歳児、１歳児がそれぞれ３割強、２歳児が約２割、３歳児が約１割を占めていることが明らかになった。

よって、本結果は、男女比がほぼ同等の第１子、０～１歳児を主としたデータによると言えるだろう。

①　子育てをしていて将来心配に思うこと

182事例のうち約４割（71事例）の母親が、「心配に思うこと」について何らかの回答をしていた。

回答があった事例のうち、８割近くの母親が㋑「教育・親子関係」（54事例）に関して心配していることが明らかになった。また、回答者の約３割の母親が㋐「子どもの成長発達」（20事例）について心配しており、回答者の約２割の母親が、㋒「生活」（16事例）について心配していることが示された。（表１参照）

㋑「教育・親子関係」についての心配の内容を詳しく見ると、「どのようにしつけをしたら良いか（事例63）」、「しかりかたや褒め方（事例14）」など、多く（34事例）はしつけや生活習慣の教え方、日常的な子どもの行動への関わり方・対処の仕方といった育児のノウハウに関わる事柄であるが、他方で、「しつけ、教育をしっかりしたい反面、しすぎてはいけないので、その境界線が難しいと感じている（事例13）」、「社会がどんどん変化するなか、どのように育てていけばいいのか（事例46）」、「親と子どもの位置関係（子どもにとってよい親子関係）（事例131）」など、教育観や親としてのあり方に関わる内容を示すものもあった。

被調査者の８割が第１子についての回答であり、育児を日常的に学べる機会の少ない現代社会の状況を考えると、しつけの仕方や子どもの行動への対処の仕方がわからず不安に思う母親が多いのは当然のことかもしれない。しかし一方で、子ども観や教育観を深く考えずに対処のノウハウばかりに関心が向いている母親が多いようにも見受けられる。子育ての土台となる子ども観・教育観を持てずにいる母親の現状がうかがえる。

本研究の資料では、「子育てをしていて将来心配に思うこと」の回答として「子どもの成長発達」を取り上げた事例はわずか３割であり、その中でも「健康」と回答した事例は１事例に過ぎなかった。「子どもの成長発達」について、病気や怪我を心配するよりも思春期の心の状態や社会適応を心配する母親の姿にも、教育をめぐる今日の困難な状況が示されているように思われる。

②　他の育児支援への参加

182事例のうち約３割（54事例）の母親が、複数箇所の育児支援に参加していることが明らかになった。

回答があった事例のうち、ほとんど（52事例）の母親が㋐「子育ての学び合いと交流（子育て支援センター等の育児教室または育児サークルまたは育児広場・サロンなど）」の場に参加していることが明らかになった。また、回答事例中約４割の母親が㋑「育児イベント（親子向

けの体操や本読みなど)」にも参加していることが示された。就園前の「プレ保育」や「託児」などの利用は２事例であった。他に「地域の子育てマップの制作」など、子育て支援の主体者としての参加も１事例見られた。(表２参照)

これらのことから、支援を求めている母親は、単なるイベント参加以上の、学び合い話し合える、主体的な交流の場を求めていると言えるのではないだろうか。

③　今後必要な育児支援

182事例のうち約35％（63事例）の母親が、「今後必要な育児支援」について何らかの回答をしていた。

回答があった事例のうち、「主に親子を対象とした支援（保育所・幼稚園の保育、託児・一時預かり、親子広場・交流、育児サークル、親子教室、子育て支援センターなど)」を必要と回答した母親が約７割、「主に親を対象とした支援（母同士の交流、母のリフレッシュ、経済的支援、育児相談など)」を必要と回答した母親は約３割であった。一方、「主に子どもを対象とした支援(子どもの遊び場・子どもの交流など)」を必要と回答した母親は約1.5割であった。（表３）

働く母親への支援、子育て中の親子の交流など、多くが親子あるいは母親自身への支援を求めている様子が窺われた。全事例の約７割が０～１歳児の母親であり、子どもを対象とした支援については、まだ想像し難かったとも思われる。この結果は、あるいは現代の母親の特性でもあるかもしれない。これらについてより明確にするためにはコホート研究が必要になるであろう。

（２）　子育て支援を利用する０～３歳児の母親の育児支援について

中野（1999)[11] は、０～１歳の子どもを持つ母親の育児不安と育児情報の関連性について指摘し、育児閉塞感の強い母親ほど多くの育児情報を必要としており、しかも子どもに関する情報だけでなく母親自身に関する情報や、子育てを周りと担っていくための情報をより必要としていることを明らかにしている。ならば多くの情報を提供すれば育児不安は改善されるのであろうか。それほど単純ではないだろう。情報の量や取捨選択の問題ではなく、本当に必要なものは何なのかをもっと掘り下げて考える必要があるように思われる。

中野による研究と同様に、子ども以上に母親自身がまず支援を必要としている様子が本研究の結果からも窺えるが、その内容は、子どもが育ちゆく社会への漠然とした不安や母親自身が親として進みゆく方向性への確信のなさを反映したものではないだろうか。

育児支援においては、子育ての具体的なノウハウの提供、傾聴と共感による不安軽減および親としての自信回復などが強調されがちであるが、幸・浅野（2016)[10] による育児安定タイプの事例分析研究からは、むしろ社会と子どもを見据えて自らの子育てを振り返ったり対話するような機会が持てること、つまり「対話や関係形成による洞察」を目指すタイプの教室が安定的育児に必要な支援の一つであることが示唆された。本研究における自由記述の分析からも、同様の問題が示されたと言えるだろう。親自身が自分の生き方や教育観を主体的に考えていけるような支援が今後ますます必要になってくるのではないだろうか。

本研究では、自由記述の回答内容を分析することによって、０～１歳児の母親の育児支援ニーズを検討した。その結果、具体的な子育て方法がわからずに困っている状況が明らかになった。今後は、ここで得られた結果をふまえ、さらに細かく各因子の得点の高低との関連を分析し、

母親のタイプによる育児不安や支援ニーズを検討する予定である。

6．要　約

子育て支援を利用する母親182事例（対象となる子どもの年齢範囲は、おおよそ０～３歳）について①「子育てをしていて将来心配に思うこと」、②「他の育児支援への参加」、③「今後必要な育児支援」の自由記述について内容をカテゴリー化し、回答内容と回答数を検討した。

調査対象となった子どもについては、男女比がほぼ半々であり、出生順位は第１子が約８割、対象児の年齢は０～１歳児が約７割であった。

①「子育てをしていて将来心配に思うこと」の回答数と内容については、回答があった事例のうち、「教育・親子関係」に関して心配に思う母親が８割近くあることが明らかになった。「子どもの成長発達」についての心配は、回答者の約３割であった。

②「他の育児支援への参加」の回答数と内容については、回答があった事例のうち、ほとんどの母親が「子育ての学び合いと交流」の場に参加しており、約４割の母親が「育児イベント」に参加していることが明らかになった。

③「今後必要な育児支援」の回答数と内容については、回答があった事例のうち、「主に親子を対象とした支援（保育所・幼稚園の保育、親子広場・交流など）」を必要と回答した母親が約７割、「主に親を対象とした支援（母同士の交流など）」を必要と回答した母親は約３割であった。一方、「主に子どもを対象とした支援（子どもの遊び場・子どもの交流など）」を必要と回答した母親は約1.5割であった。

全体に、親として子どもにどのように直面して行けばいいのかわからず困惑している母親の姿が一面で浮き彫りになったといえる。

Abstract

We conducted a questionnaire survey on 1) concerns about the future, 2) participation in other child care services and 3) child care services needed in the future. We categorized and examined the free descriptive answers given by 182 mothers, most of whose children were under 4 years old, and were using child care support services.

The male to female ratio of the children was approximately 1 : 1 and about 80% of them were the first child, and about 70% were children under 2 years old.

In the answers about “concerns about the future”, about 80% of the mothers were worried about education and parent-child relationship. About 30% were worried about children’s growth.

In the answers about “participation in other child care services”, most of the mothers were participating in exchange meetings and about 40% were participating in child-rearing events.

In the answers about “child care service needed in the future”, about 70% of the mothers needed parent and child support, about 30% needed support for mother, and about 15%

needed support for the child.

7．謝　辞

調査にご協力下さった春日井市子育て子育ち総合支援館（かすがいげんきっこセンター）関係者の皆様と、共同研究者であり論文をまとめるにあたってご助言くださった、至学館大学健康科学部の浅野敬子先生に心より感謝申し上げます。

8．文　献

1）櫻谷眞理子，今日の子育て不安・子育て支援を考える～乳幼児を養育中の母親への育児意識調査を通じて．立命館人間科学研究，第７号，pp.75-86，（2003）
2）柏木惠子，子どもが育つ条件―家族心理学から考える．pp.38-102，岩波新書，（2008）
3）浅野敬子・高橋正教・幸　順子：保育園に子どもを預ける母親の育児意識構造．中京女子大学研究紀要40，pp.49-58，（2006）
4）浅野敬子・百瀬真美・山本裕子・高橋正教・時安和之，母親の育児意識に関する研究：幼稚園に子どもを預ける母親の育児意識構造．中京女子大学研究紀要42，pp.115-123，（2008）
5）幸　順子・浅野敬子，母親の育児意識に関する研究：子育て支援親子教室参加者の育児意識構造．名古屋女子大学紀要第56号（人文・社会編），pp.199-210，（2010a）
6）幸　順子・浅野敬子，母親の育児意識：子育て支援利用の母親について．日本保育学会第63回大会発表論文集，（2010b）
7）幸　順子・浅野敬子，母親の育児意識に関する研究：子育て支援利用者の調査回答パターン分析．名古屋女子大学紀要第58号（人文・社会編），pp.187-195，（2012）
8）浅野敬子・幸　順子・時安和之，母親の育児意識に関する調査資料の基礎研究：保育園児・幼稚園児・子育て支援教室利用の母親について．至学館大学研究紀要47，pp.１-10，（2013）
9）幸　順子・浅野敬子，母親の育児意識に関する研究：育児ストレスタイプの自由記述．名古屋女子大学紀要第60号（人文・社会編），pp.45-54，（2014）
10）幸　順子・浅野敬子，母親の育児意識に関する研究：育児安定タイプの自由記述．名古屋女子大学紀要第62号（人文・社会編），pp.251-260，（2016）
11）中野洋恵，０～１歳児の子どもを持つ母親の育児不安と育児情報に関する一考察：平成９～10年度「高度情報化社会における新しい子育てネットワーク形成に関する実証的調査研究」より．国立婦人教育会館研究紀要第３号，pp61-70，（1999）